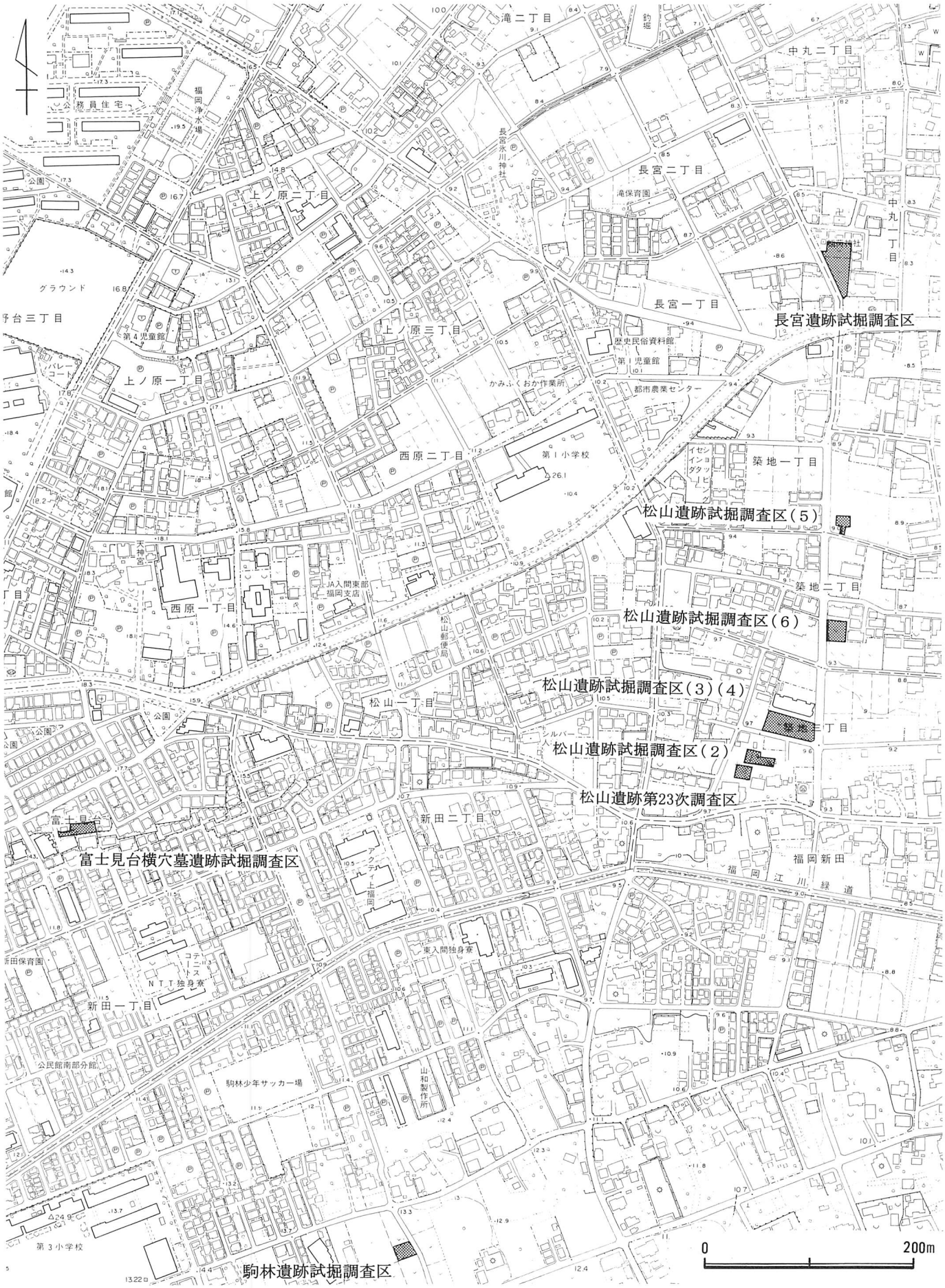
松山遺跡第19号住居跡全景（南より）

松山遺跡第19号住居跡土錘出土状態（南より）

第１図　遺跡位置図（1/13000）



第2図　松山遺跡・長宮遺跡・富士見台横穴墓・駒林遺跡試掘調査区位置図（1/5000）

第3図　松山遺跡第23次調査区、試掘調査区(2)、(3)、(4)全測図（1/400）

Ⅱ　松山遺跡第23次調査

原　　因　個人住宅の建設

所 在 地　築地3-2-13,-24（うち、第23次調査部分は、－24の一部）

調査期間　４月16日、５月11日～14日

調査担当　笹森健一、柳沢健司

概　　要　調査区は、平成８年度試掘区①の東側隣接地にあたり、北側境界に隣接する地区計画道路工事の際の事前調査時（第21次調査）に７世紀の竪穴住居跡（第17号住居跡）が確認されている。

４月16日、調査にあたって、北東隅の土地境界杭を基点に２ｍグリッドを西へ向かって１～９区、南へ向かってＡ～Ｆ区を設定し、一区おきに表土除去を行った。Ａ－３区にて土師器片、須恵器片を伴う黒褐色土を確認したので、拡張を行い、遺構のプラン把握に努めた。事前の開発業者との打ち合せで土日は更地にするように要望があったので、一旦埋め戻した［試掘調査(1)］。

５月11日、遺構所在部分の個人住宅の施主が決まったので、再び表土を除去し、プランを精査したのち、セクション＝ベルトを設定して、遺構の覆土を除去した。出土遺物から奈良時代の住居跡であることが確認されたので、試掘調査に引き続いて国庫補助事業として本調査を実施した。12日、セクション図を作成し、セクション＝ベルトを除去した。住居跡は、攪乱が激しいため、カマドが丸ごと破壊されていたが、側壁が、床面近くでかろうじて残っていた。住居の大きさは、周構の芯々にて南北2.6m×東西2.9mの住居跡で、主軸方向はＮ－30°－Ｗである。遺物は須恵器坏や土師器甕に加えて土錘６点が出土した。時期は８世紀後半であろう。13日、平面図を完成し、遺物あげを行い、全景写真を撮影した。14日、一通りの調査を終了したので、埋め戻しをおこない、器材を撤収した。

出土遺物　須恵器、土師器、土錘６点

遺　　構　住居跡　１軒（奈良時代）、溝１条（近代以降か）

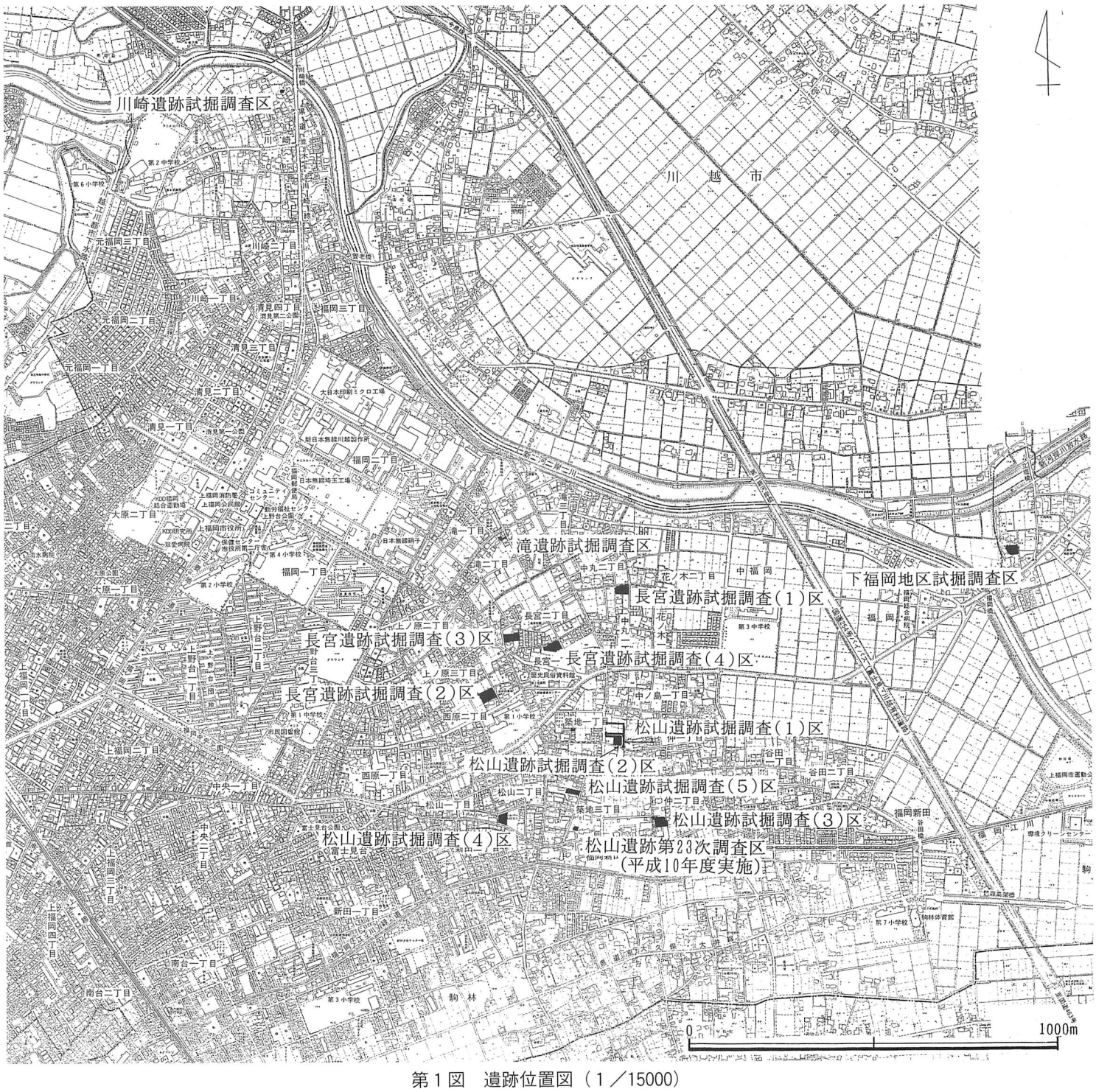
松山遺跡試掘調査(1)作業風景
（北東より）

松山遺跡第19号住居跡調査風景（西より）

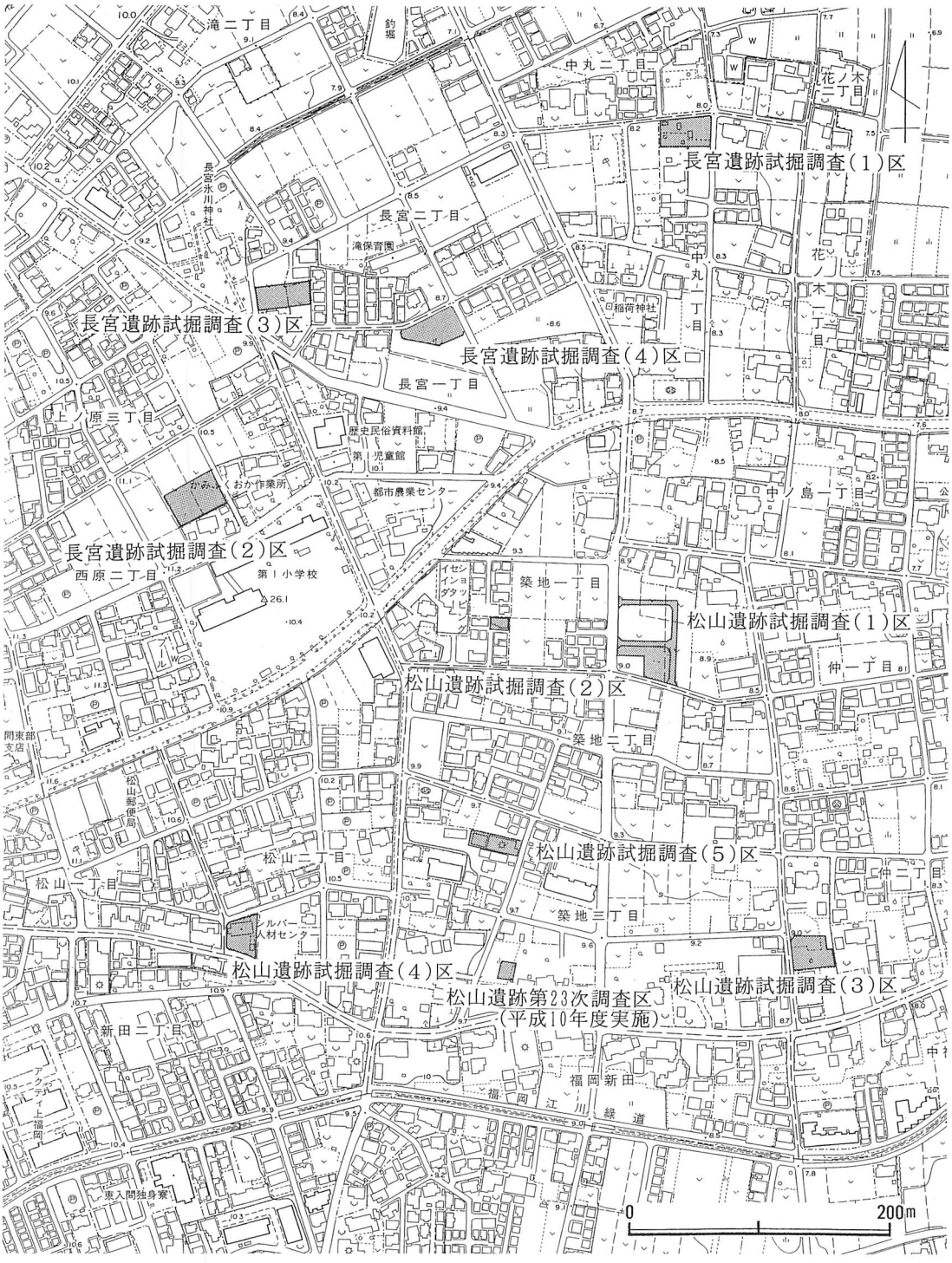
松山遺跡第19号住居跡調査風景（東より）

松山遺跡第19号住居跡土錘出土状態

松山遺跡第19号住居跡全景（南より）



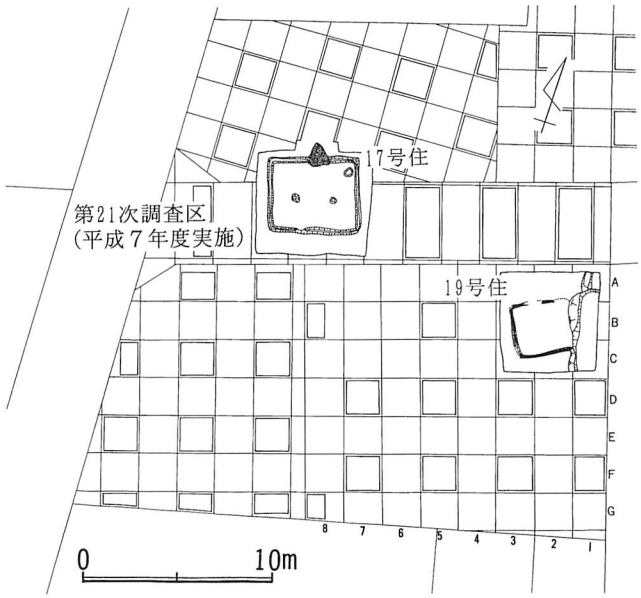
第１図　遺跡位置図（１／15000）



第8図　長宮遺跡・松山遺跡調査区位置図（1／5000）

XⅣ　松山遺跡第23次調査

所 在 地　築地３－２－24の一部
原　　因　個人住宅の建設
調査面積　(36㎡)
調査期間　H10.5.11～14
調査担当　笹森健一、柳沢健司
出土遺物　須恵器、土師器、土錘６点
遺 構 等　住居跡（奈良時代）１軒、
　　溝１条（近代以降か）



第17図　松山遺跡第23次調査区全測図（１／400）

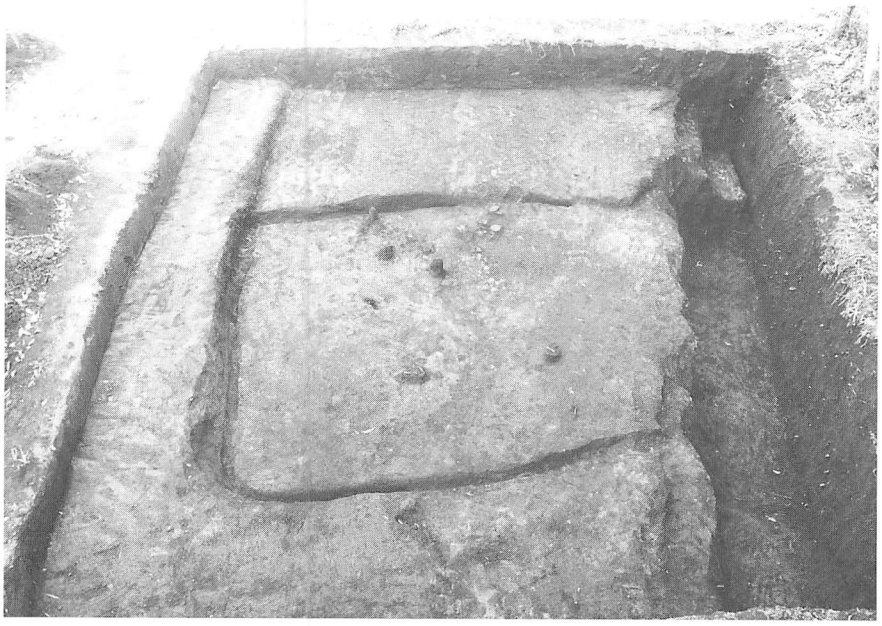
■遺跡の立地及び調査に至る経過

調査区の位置は、松山遺跡の範囲でも南端に近い位置で、標高9.7mほどの地点である。南へ100mほどで江川の小支谷があり、東へ400mほどで標高７mの水田面に至る。築地３丁目地区は遺構の集中域であり、確認された飛鳥～奈良・平安時代の遺構は、下記のとおりである。

住居跡１軒（８号、８世紀後半）N-10°-E　第13次調査
住居跡１軒（11号、７世紀後半）　第17・24次調査
住居跡１軒（16号、７世紀後半）N-10°-E　平成７年度試掘(2)
住居跡１軒（17号、７世紀後半）N-20°-W　第21次調査
住居跡１軒（18号、９世紀前半）N-50°-E　第22次調査
掘立柱建物跡３棟（８世紀）
住居跡１軒（19号、８世紀後半）今回報告　第23次調査
住居跡２軒（20号、21号、８世紀初頭）整理中　第25次調査

平成８年度実施の第22次調査で掘立柱建物跡が３棟確認されたことは、松山遺跡の景観イメージを一変させてしまうものであった。今回報告する19号住居から北方40mに奈良時代後半の８号住居跡が位置し、より古い７世紀後半～８世紀初頭の住居跡も直線距離で40m以内に位置している。しかし、住居の主軸方位は必ずしも一致していない。

平成10年５月11日から住居跡が確認された部分の約36㎡弱の表土を剥いで本調査を14日まで行った。今年度の補助事業として、本報告するために、遺物の実測、図版作成などの整理作業を行った。次ページ以降にその詳細な内容を報告する。



松山遺跡第19号住居跡全景（南より）

■確認された遺構と遺物

◇確認された遺構

1．第19号住居跡

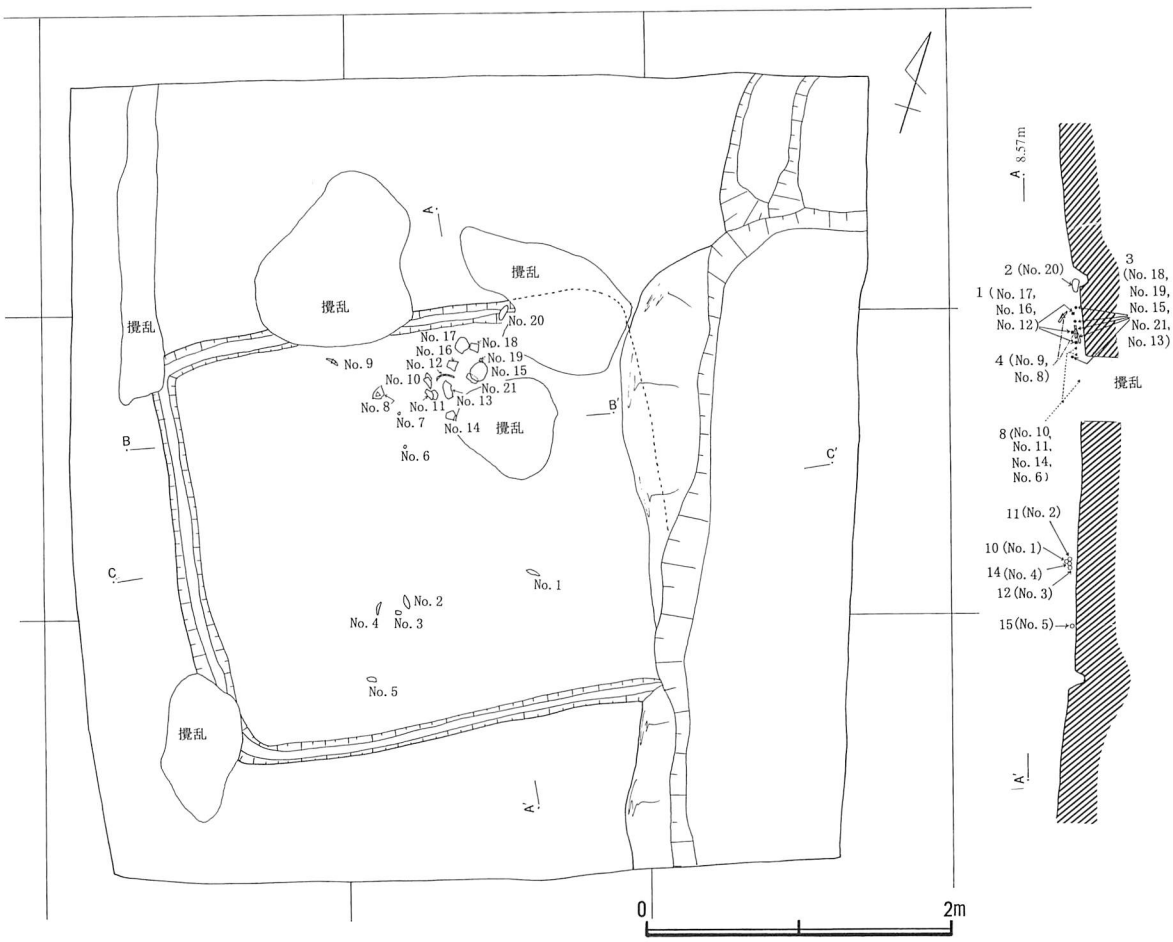
周溝の芯々にて、南北2.6m×東西2.9mの小形住居である。主軸方位は、N-30°-Wで、カマドは、完全に破壊されてたが、側壁が床面近くで辛うじて残っていたためプランを確認することができた。出土遺物は、須恵器坏（うち実測可能なもの6点）、土師器甕（口縁部及び頸部が実測可能なもの1点）、土錘6点である。須恵器や土師器は実測不能な小破片もそれぞれポリ袋1袋づつ程度出土している。なお、土錘が確認されたのは、第2号住居跡（第1次調査、昭和53年（1978）10月実施）、第14号住居跡（第19次調査、平成6年（1994）1月実施）に続いて三例目となる。

土器類は、住居の北壁中央付近に集中してみられた。土師器甕破片には、煤が厚く付着したものがあり、カマドで使用されていたと推察される。一方、土錘のうち5点は、住居の南半にまばらになって出土している。

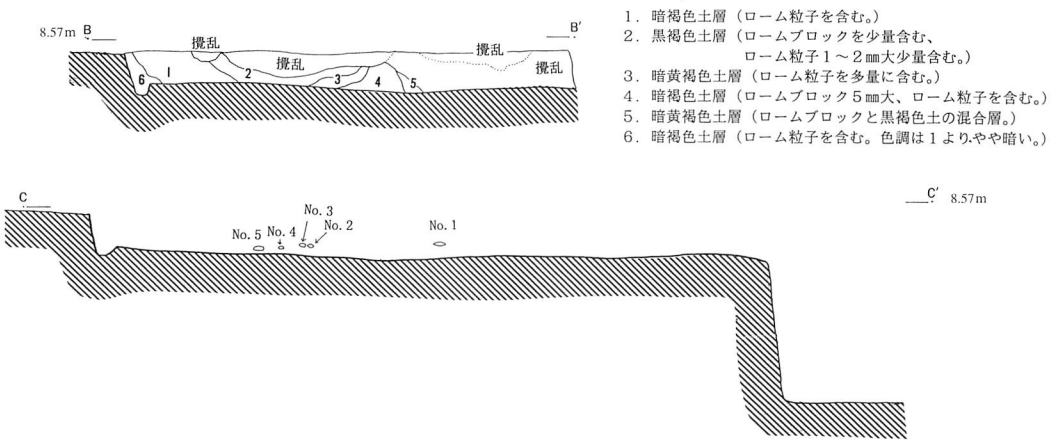
遺物は、床直上のものと2～5cmほど浮いて出土しているものとがあるが接合することから年代の決め手として差し支えないと考えられる。須恵器坏の底部の調整と法量から考えて住居の年代は8世紀第4四半期であろう。

2．溝15

19号住居の東壁を破壊している。年代は、不明であるが、覆土は、軟弱で、大きいものは、直径4～5mm大のローム粒子を多量に含んでいる様子からあまり古いとは考えられない。近代以降と考えられる。確認面から概ね深さ1mである。断面形状



※断面図の（　）の前の数字は、第19図の遺物の番号に一致している。



1．暗褐色土層（ローム粒子を含む。）
2．黒褐色土層（ロームブロックを少量含む、ローム粒子１～２㎜大少量含む。）
3．暗黄褐色土層（ローム粒子を多量に含む。）
4．暗褐色土層（ロームブロック５㎜大、ローム粒子を含む。）
5．暗黄褐色土層（ロームブロックと黒褐色土の混合層。）
6．暗褐色土層（ローム粒子を含む。色調は１よりやや暗い。）

第18図　松山遺跡第19号住居跡実測図（１／50）

は、凹の字に近い。確認した範囲からは、１m20cm以上の幅はもっているが、調査に値する遺構とは考えなかったので正確な数値は確認できていない。

◇確認された遺物

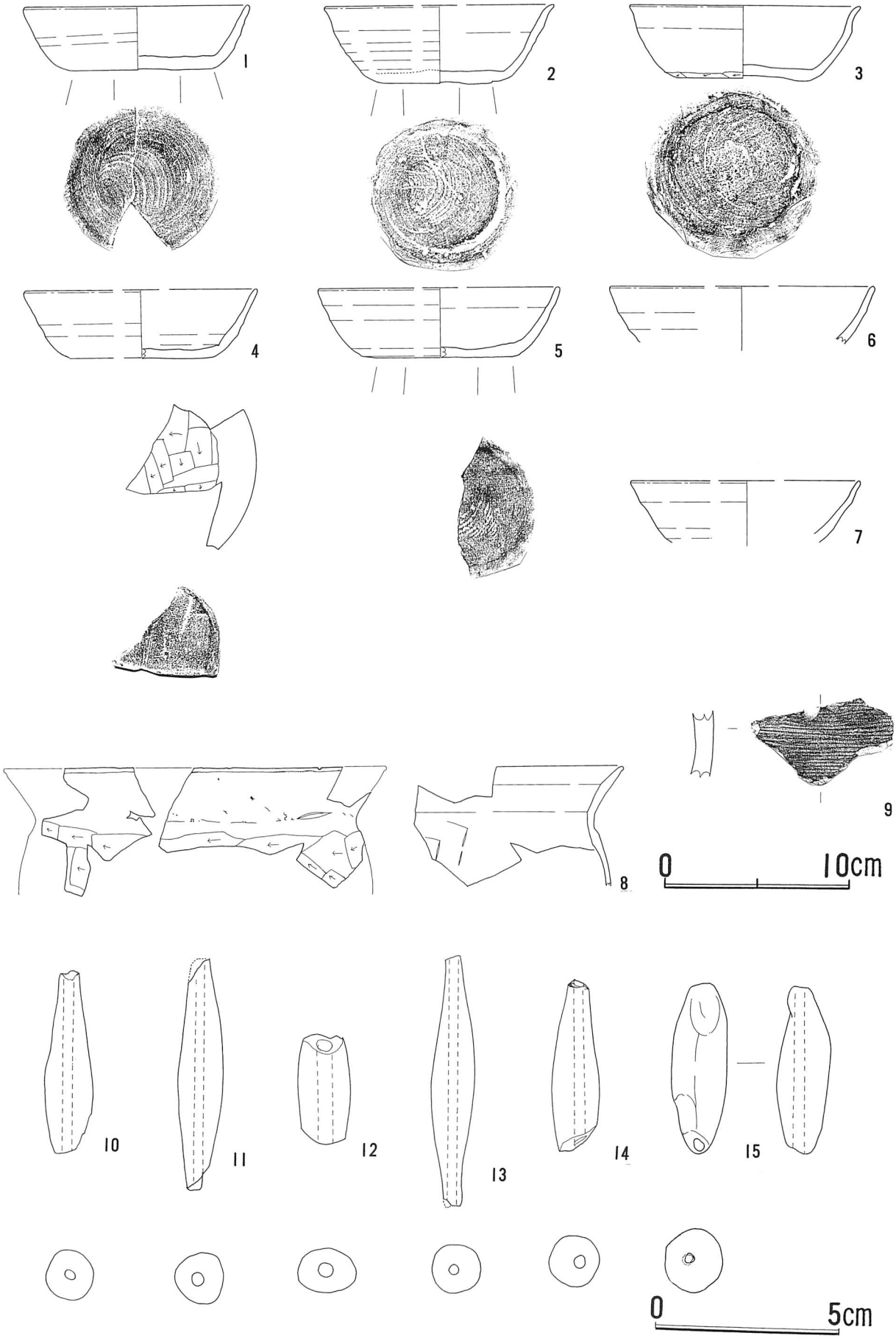
いずれも第19号住居跡からの出土遺物である。36ページ遺物観察表のとおり。

遺物観察表（須恵器、土師器）※産地欄は須恵器のみ記入　　（数値はいずれもcmで示す。）

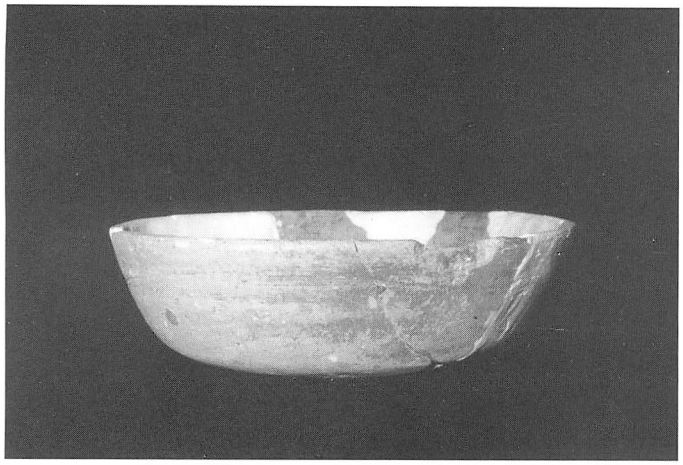
番号	器種	口径	器高	底径	胎土及び色調	産地	焼成	残存率	器形の特色、整形技法等
1	坏	12.3	3.5	7.0	灰白色	東金子	普通	70%	体部は鋭角的直線的に立ち上がる。底部内面を爪立てしている。反時計まわりの底部周辺ヘラ削り調整。
2	坏	(12.5)	4.2	7.0	灰オリーブ色	南比企	普通	33%	反時計回りの底部周辺回転ヘラ削り調整。底部に「二」の字のようなヘラ記号あり。口縁部は、指で押さえて外反させている。
3	坏	12.6	4.0	7.0	青黒色	南比企	良	90%	時計まわりに底部回転ヘラ削り調整を行っているがあまり丁寧ではないので回転糸きり痕が底部外面中央に残る。底部外面周辺を手持ちヘラ削りを9回時計回りに施す。 口縁部に青く光沢をもつ部分が見られるように焼成は良好。指押さえは2.より明瞭で口縁端部を外反させる。
4	坏	(12.5)	3.7	(7.5)	灰オリーブ色（ただし、やや青みがかかる）	東金子	良	15～20%	体部は鋭角的直線的に立ち上がるが、1.より開き気味。底部内面の爪立てが鋭く明瞭。底部外面は複数回手持ちヘラ削りを施す。
5	坏	(13.0)	3.9	(8.0)	青灰色	南比企	良	40%	反時計回りの底部回転ヘラ削り調整。面取り調整を行っている。口縁端部外面に重ね焼きの際に強く熱を受けたことによる自然釉の黒い光沢がみられる。
6	坏				灰色（5Y,7.5Y）	東金子	普通	6%	
7	坏	(12.5)			暗青灰色	東金子	良	12%	
8	長胴甕	(20.8)	器壁の厚み　頸部、口縁部4～5㎜ 胴部2～3㎜ （接合しないため、図示せず）		明赤褐色（2.5YR5/6）	土師器（雲母を含む）	良	4%	口縁端部を玉縁状につくるため端部直下に沈線がある。胴部上半に時計まわりの横方向のヘラ削りを施す。口縁部は弧状に外反する。
9	甕	器壁の厚みは、1.1cm			青灰色	不明	良	1%未満	平行叩き痕が少なくとも2単位施されている。

遺物観察表（土錘）

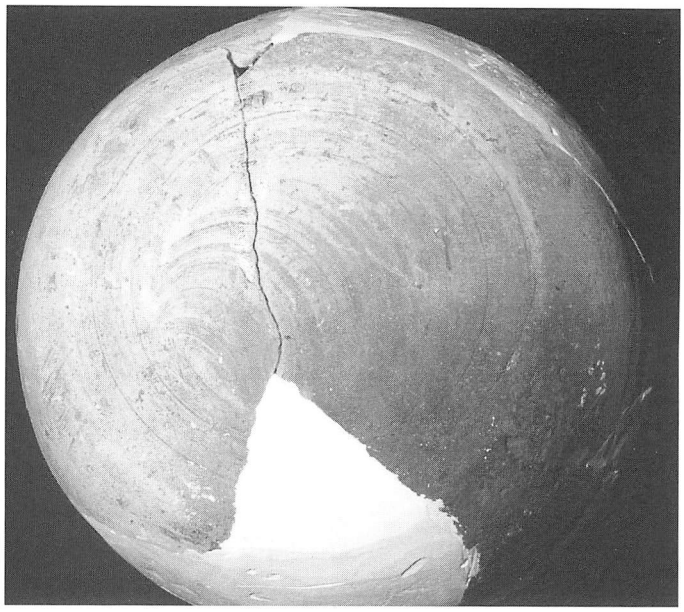
	長さ(cm)	最大径(cm)	孔径(㎜)	重さ(g)	胎土色調（標準土色帖1995年版による）
10	(5.1)	1.45	2.5	9.5	黄褐色（2.5Y 5／4）
11	6.3	1.35	2.5～3	9	にぶい黄（2.5Y 6／4）
12	(3)	1.5	4	4	にぶい黄橙色（10YR 6／4）
13	6.8	1.3	2.5～3	9.5	にぶい黄褐色（10YR 5／3～5／4）
14	(4.5)	1.45	2.5～3	8	にぶい黄褐色（10YR 5／3～5／4）
15	4.5	1.8	3～3.5	12	にぶい黄橙色（10YR 6／4）



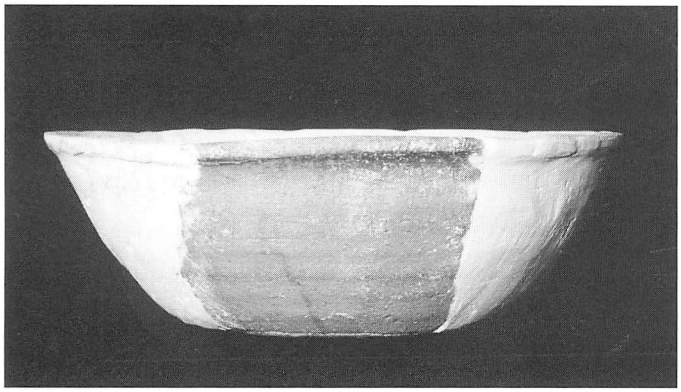
第19図　松山遺跡第19号住居跡出土遺物実測図（１／３）



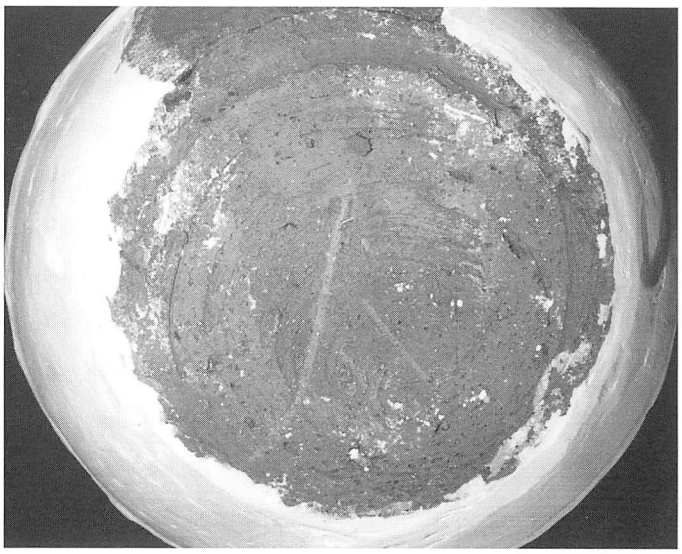
1．須恵器坏　側面



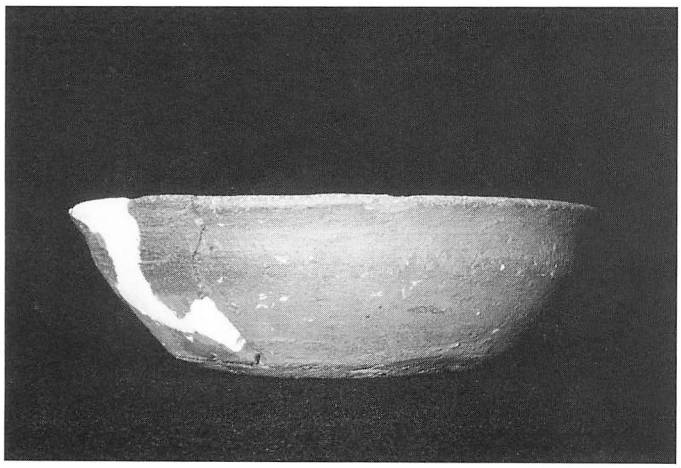
1．須恵器坏　底面



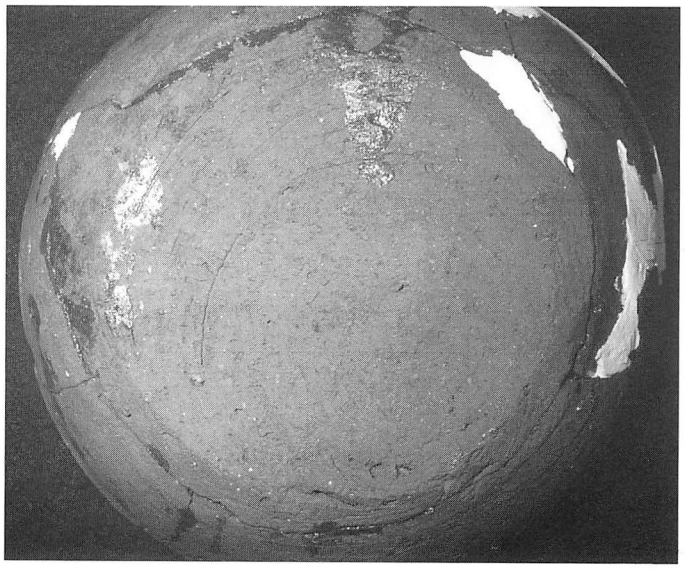
2．須恵器坏　側面



2．須恵器坏　底面

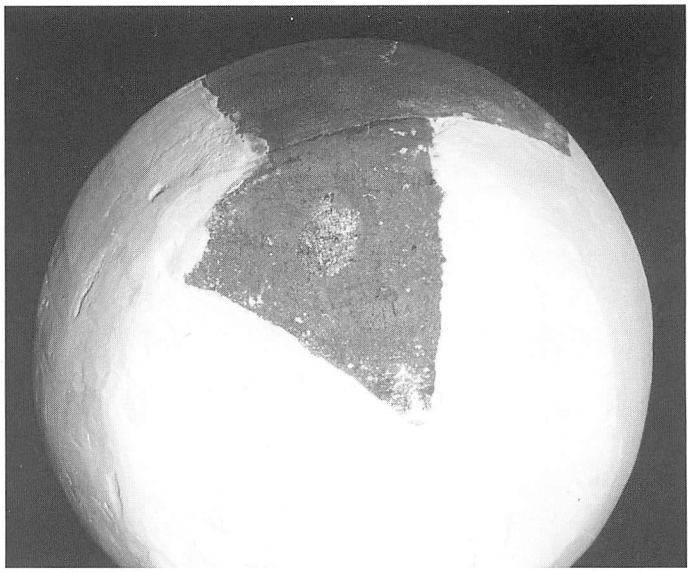


3．須恵器坏　側面



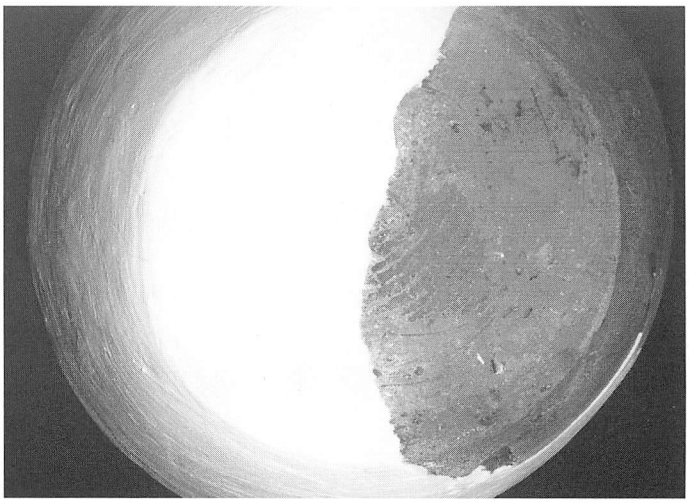
3．須恵器坏　底面

4．須恵器坏　側面

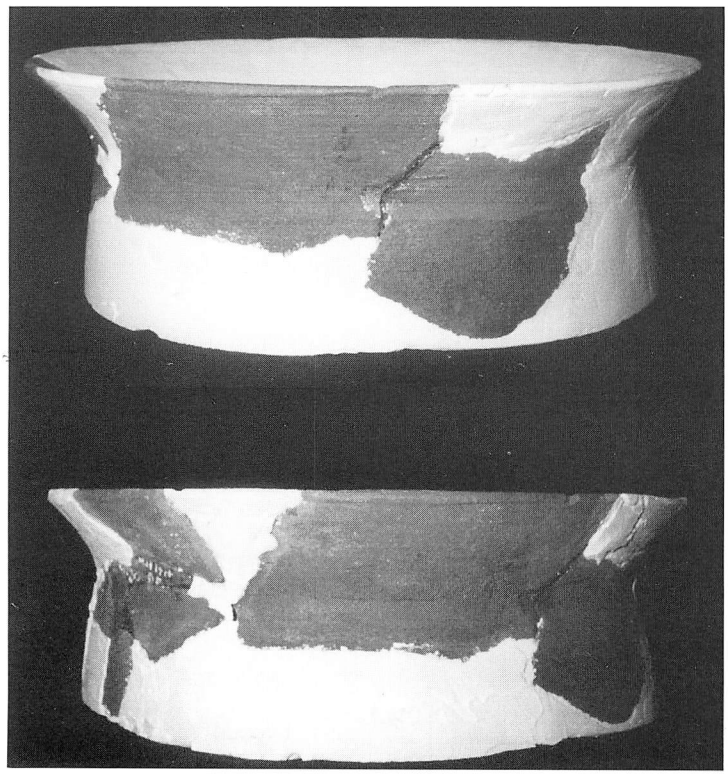


4．須恵器坏　底面

5．須恵器坏　側面

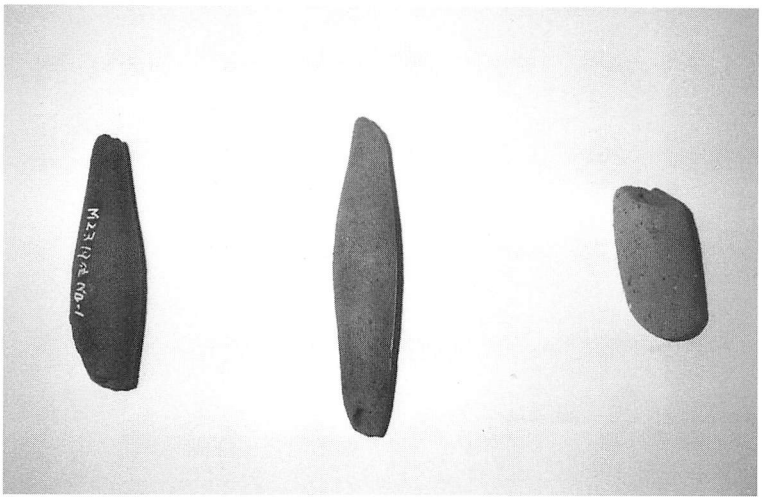


5．須恵器坏　底面

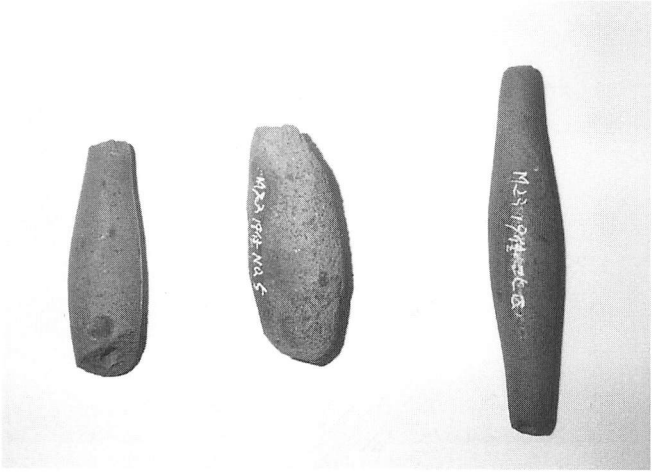


8．土師器甕　側面(1)

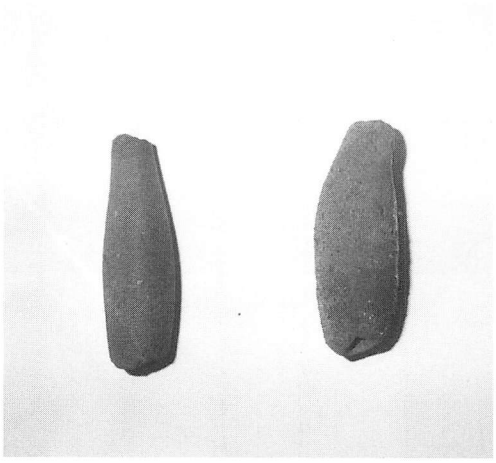
8．土師器甕　側面(2)



土錘（10.～12.）



土錘（13.～15.）



土錘（14.15.）

郷土史料第52集　上福岡市内遺跡　**埋蔵文化財の調査(23)**

埼玉県上福岡市教育委員会（上福岡市福岡１丁目１番２号内）

発行年月日　2001年３月30日　　印刷　望月印刷株式会社